

われているが、現在では一般に程よく衣紋を抜いて着せている。縫製上大裁物には標準 2 cm の寸法が用いられているが、この着衣の肩山と身体の肩山との状態がどうかを、また個々の体型に適した寸法を得ることを以て目的とした。

2. 1)として学生を対象に、2 cm寸法の「くりこし」をつけた単長着で着装実験を行ない、2)では年輩層の婦人について平常着の着方の実態を調査し、着心地、機能上、整容上より体験を通しての個々の定めている平均寸法を得た。

3. 1)学生の場合は肩山標より着衣の肩山のずれ寸法は平均1.2cm、2)では2.2cmの平均寸法を得た。(以上第1, 第2報にて東横学園紀要に発表)今回は更に肩の部位、厚さ、着方による「くりこし」寸法、体型による寸法等について実験を行なったことを報告する。

C-64 和服構成における一考察(第3報) —女子長着の「くりこし」について—

東横学園短大 上田 トメ

1. 和装のポイントは衿元にある。下げ髪をしていた時代及び現在も下げ髪の装いには抜衣紋はない。縫製上にも「くりこし」はつけていない。衣紋を抜いて着ること即ち衿足を出した着方をすることは髪型の変化からきたものとか、くずした着方のよさからきたものなどとい